駒大＆包囲網徹底分析

駒大の箱根駅伝4連覇で幕を閉じた昨シーズン。しかし春のトラックシーズンでは駒大包囲網を中心に各大学がメキメキと力をつけてきた。注目すべきは一流選手の証である5千m13 分台、1 万m28 分台をマークした選手が続出し、例年以上に下級生が勢いに乗っていること。スピード駅伝になることは必至だ。ただし駅伝の戦術と経験では駒大が有利で、05 年駅伝シーズンも駒大中心でレースが展開することは間違いない。近年は各校の実力が拮抗しどのチームも侮れない。その中で今シーズン大注目の有力チームを徹底分析！！

☆過去４年の駅伝優勝校☆

	出　雲	全日本	箱　根
01 年度	順　大	駒　大	駒　大
02 年度	山学大	駒　大	駒　大
03 年度	日　大	東海大	駒　大
04 年度	日　大	駒　大	駒　大

分厚い選手層の駅伝王者

駒澤大学

学生駅伝界をリードする王者･駒大。主将**齊藤弘幸**、学生駅伝フル出場の**佐藤慎悟**、大舞台に強い**糟谷悟**ら主力の４年生がチームを支える。その中でも**藤山哲隆**が主軸へと急成長しエース級の活躍が期待できる。つなぎ区間は**藤井輝**やルーキー**池田宗司**　ら下級生の成長がカギとなる。ロードに強い選手が多くレギュラー争いは熾烈を極める。選手層の厚さは今年も健在。まずは出雲で勢いをつけて最終目標は箱根５連覇だ。

Noritaka FUJIYAMA

勢い抜群！湘南の暴れん坊

東海大学

１万m高校記録保持者･**佐藤悠基**の加入によりチームが勢いづいている。箱根１・２区で活躍した**丸山敬三**と**伊達秀晃**はトラックでも大ブレイク。この３人はユニバーシアードで世界の強豪を相手に大健闘し、駅伝でも大暴れしそうだ。佐藤のアクシデントにより全日本出場権を逃したが 1 番勢いがあるチーム。最上級生の**一井裕介**と**中井祥太**を含めると１万m28 分台ランナー５人が揃う充実ぶり。出雲・箱根初制覇なるか。

Hideaki DATE

タレント揃いで黄金期再来へ

順天堂大学

関東インカレ 1 部５千mと１万m日本人トップの**松岡佑起**や５千m高校記録保持者･**佐藤秀和**ら下級生に勢いがある。上級生も箱根 5 区で爆走しＭＶＰに輝いた**今井正人**、スピードランナーの**村上康則**らを中心にタレント揃い。選手層も厚みも増している。調整力と適材適所の采配も魅力だ。近年はベスト３入りを逃しているが、ミスなくつなげば紫紺対決以来の優勝争いが見られるはずだ。今年こそ黄金期再来を目指す。

Masato IMAI

爆発力秘めたエリート集団

日本大学

外国人留学生の**D･サイモン**がさらにパワーアップ。１万mで学生最速記録をマークし、持ち前のスピードを武器にエース区間で他大を圧倒しそうだ。サイモン以外では長丁場に強い**下重正樹**や関東インカレ１部ハーフ王者の**吉岡玲**らが主軸を担う。**武者由幸**や**土橋啓太**といった高校時代大活躍したいわゆるエリートたちが、本番でいかに実力を発揮するか。まずは出雲３連覇がターゲットとなる。

Simon NDIRANG

伝統の安定感で覇権再び

中央大学

箱根１区でブレーキした**上野裕一郎**がトラックで復活への手応えを感じさせた。ゴールデン世代のリーダーとしては物足りない結果だった昨シーズンの雪辱に挑む。上野以外にも**池永和樹**、**田村航**ら安定感ある選手が揃い、どの区間でも上位で対応できそうだ。駅伝創生期から上位に名を連ねる名門校で今年も伝統の力を生かせるか。近年は優勝候補に挙げられるが、あと１歩で逃している栄冠を掴みたいところだ。

Yuichiro UENO

名門復活へ戦力充実

日本体育大学

エースの**保科光作**、**熊本剛**がユニバーシアードに出場。その経験を生かし主要区間で快走すれば大きな貯金となる。トラックで元気のなかった**北村聡**も復調し準備万端だ。日体大の誇るスターター・**鷲見知彦**(３年)をはじめ、昨年の駅伝経験者も多数残り大舞台での経験は十分。駒大包囲網の中では学生駅伝優勝から１番遠ざかっているだけに、名門復活へ向けて実力を存分に発揮したいところだ。

Kosaku HOSHINA